

5限目 テーマ:パーム油を知る。 ねらい:「見えない油」の光と陰を 考える。	(1)パーム油の用途、魅力を知る。 (2)アブラヤシ・プランテーションと熱帯雨林減少の関係を考 える。	(5) オイル・パームの実 (6) TV 番組「所さんの目がテン」 (7) TV 番組「福留功男ボルネオ紀行」 (8) パワーポイント、ワークシート
6限目 テーマ: パーム油をめぐるテレ ビ番組と新聞記事を考える。 ねらい:メディア・リテラシーを育て る。	(1)プランテーション拡大が熱帯雨林の自然を傷つけている ことを知る。 (2) 熱帯雨林保全に積極的な企業の取り組みを見る。 (3) 「持続可能なパーム油」の視点を持たせる。	(1) TV 番組「パーム油と子ゾウ」 (2) NHK「ルソンの壺『サラヤ』」 (3) サラヤ・ヤシノミ洗剤 (4) 新聞記事

6. 使用教材

- ・ ワークシート①(白地図を含む)～③、「パーム油クイズ」 ・パワーポイント
- ・ ライオン洗剤「トップ」TV-CM ・ DVD「ウルトラマン」(マレー語版)
- ・ TV 番組「所さんの目がテン『パーム油』」 ・TV 番組『福留功男ボルネオ紀行』
- ・ TV 番組「宇宙船地球号『パーム油と子ゾウ』」(2回分が 17 分に短縮・編集されたもの)
- ・ TV 番組「NHK ルソンの壺『未来へつなげる環境への取り組み』」
- ・ マレーシア国旗 ・ゴホンヅノカブト標本 ・アブラヤシ果実・種子 ・マレーシアの新聞
- ・ サラヤ社製ヤシノミ食器用洗剤(学校にあったもの) ・カルビー・ポテトチップ
- ・ 新聞記事:読売新聞 2006/10/24 朝刊、同 2007/9/11 夕刊、同 12/5 朝刊、京都新聞 2007/11/5
現地紙 NEW STRAITS TIMES 2007/8/14

7. 授業内容

【1・2限目】「マレーシアについて」

1. **マレーシアの位置・首都:**白地図で当てさせる (周辺のタイ、シンガポール、インドネシア、ブルネイとの位置関係も確認)。面積と人口密度を日本と対比。
2. **国旗:**上記周辺国の国旗も含めて当てさせる (デザインの意味も説明)。→写真①
3. **マレーシアの成り立ち:**まず国立博物館の壁画(動画)で概観し、次に年表で説明。ポルトガル、オランダ、イギリス、日本によって代わる代わる植民地支配されたことが多民族国家形成につながったことをおさえる。今年が独立 50 周年であることも確認。→写真②
4. **「ルック・イースト政策」の説明:**独立したマレーシアの国家建設の中で、かつて植民地宗主国だった日本から何を学び、発展してきたか、マハティール前首相の言葉から汲み取る。→写真③
5. **マレーシアの各民族について:**各民族の宗教、言語、食事に関する宗教上のタブーを確認。多民族国家におけるマレーシア語と英語の位置づけ、重要性にも触れる。
6. **イスラム教徒の慣習:**ハラルマークの意味と礼拝の説明をする。写真、現地新聞記事を使用。→写真④
7. **マレー語:**あいさつと英語に綴り・発音の似た単語をクイズも交えていくつか紹介。→写真⑤
8. **マレーシアの食事:**マレー、中華、インドの各料理を写真で紹介。名物のコピ・タリも動画で見せる。
9. **学校訪問:**訪れた中等学校について簡単に紹介。制服が宗教によって異なること、環境教育実践校であり、私自身も含めて日本側の環境教育実践例をプレゼンしたことも話した。→写真⑥
10. **からゆきさん:**明治大正期、マレーシアに渡った日本女性達の苦難と日本人墓地に触れる。→写真⑦
11. **日本のマンガ・アニメ:**マレーシア人の中で大人気であることを写真で説明。その一例として、マレー語版「ウルトラマン」DVDの一部を見せ、マレー語の響きにも触れさせる。

12. マハティール著『立ち上がれ日本人』より:抜粋を読んで、かつての日本人から学んだこと、今の日本人に対する率直な指摘と期待を読み、日本人としてどう歩んでいくべきかを考える。→写真⑧
13. NHK「英語でしゃべらナイト」マレーシア特集より:番組の前半を見せ、クアラルンプールなどの街と人々の様子、公用語としての英語がどのように学ばれているかを見る。

【3時限目】「先住民族ティン族ダガット村」

1. 「Bamboo Charcoal(竹炭)」:訪問した中等学校で自分が行った、本校普通科自然環境コースの取組に関するプレゼンを紹介。→写真⑨
2. ティン族の起源神話:日本の「かぐや姫」に似た神話を英文ガイドブックからコピーして紹介。
3. マレーシアの先住民族とは:どこに住む、どのような人々か、説明。
4. ダガット村への道、ティン族の生活と慣習:サンダカンからのボートによる旅を地図で示し、動画でスコールの中の移動、マングローブ林の様子を見せる。ダガット村ホームステイの様子を写真で紹介。熱帯雨林の恵みに生かされ、水道・ガス・電気がない中で基本的に自給自足を守り、熱帯の気候を考えた暮らし、家族同士・村民同士の絆をととも大切にしていること、などを説明。→写真⑩
5. ジャパンボックス:村民との交流で行った日本の伝統文化と現代文化紹介の説明、自分なら何を持って行き、何を伝えるかを考えさせた。

【4・5限目】「熱帯雨林とパーム油」

1. 熱帯雨林の気候:年間の平均気温と降水量をデータで確認。→写真⑪
2. 熱帯雨林の自然:独特の植生と、そこに棲む動物・昆虫などを写真で紹介。→写真⑫、⑬
3. 熱帯雨林の重要性:地元だけでなく地球全体にとって死活的な意味を持っていることを説明。
4. 森林伐採、熱帯雨林の消失:クイズで考えさせ、熱帯雨林減少の進行が地球温暖化、さまざまな生物種の絶滅など、地球にとって深刻な事態をもたらすことを感じさせる。→写真⑭
5. 家庭用洗剤とポテトチップをつなぐモノ:「パーム油」の存在を教える。ポテトチップの包装表示と、ライオンの洗剤「トップ」の発売当初のCMを見て確認。→写真⑮、⑯
6. パーム油の長所、生産現場:未知のパーム油が私たちの日常生活に欠かせない存在となっていることを、ビデオ「所さんの目がテン」を見て学ぶ。
7. 熱帯雨林伐採とアブラヤシ:熱帯雨林が伐採されてプランテーションが拡大している現実とその問題点を学ぶ。ビデオ「福留功男のボルネオ紀行」を視聴(途中まで)。
8. ワークシート「パーム油クイズ」:今日の学習の整理として、各自で考えさせた後、解答・説明。最後にポテトチップを開封し、パーム油の風味を確認(?)しつつ試食。

【6限目】「熱帯雨林とパーム油の問題をめぐる動きと解決策、マスメディアの報道」

1. 「パーム・プランテーションと傷ついた子ゾウ」:録画ビデオを見て、プランテーションの犠牲となっている野生動物の状況と、それを知らされた日本企業、サラヤの社長が起こした行動を見る。
2. NHK「ルソンの壺」:上の番組が引き起こした視聴者の反応と、それを受けたサラヤ社長の行動、企業としての環境問題に対する積極的な取組を見て考える。
3. 新聞記事:4つの記事コピーを配布し、記事をどう読みどう考えるべきか見直す。→写真⑰、⑱
4. まとめ:これからの時代に、社会の発展と環境をどのように考え、行動すべきか、考えさせる。

8. 生徒の反応(感想より)

【1・2限目】(マレーシア入門)

・マレーシアはとても愛国心が強く、日本とまったく逆に宗教への思い入れが強いとわかった。一人一人が国を愛し、努力して勉強しているところはとても尊敬する。／学校の制服が民族によって違う点が珍しかった。マレーシアの人は毎日お祈りをし、時間まで決まっています、お祈りを大切にしていると思った。多民族国家で宗教もいろいろで、すごい国だと思った。／

・ご飯の食べ方やトイレのしかたは驚いた。1日5回も礼拝するとか、イスラム教徒は豚肉を食べてはいけななど、色々大変だと思った。幼い子でもペラペラ英語を話し、すごい。国旗がいっぱいで、マレーシアが大好きやねんなー。／民族同士、互いの文化を尊重し合っているのがすごい。文化の違いでけんかが起こらないのかなって思う。マレーシアはずっと色々な国に植民地とされていたので、かわいそうと思った。／いろいろな宗教の人がいて、それぞれの宗教に合わせた料理などがあって、とてもおいしそうだった。やっぱり、どこの国に行っても英語が必要だと思った。

【3時限目】(ダガット村について)

・今の日本の生活をしていると、ダガット村の自給自足の生活は意外とあこがれる面があった。スコールの雨水が弱アルカリ性で肌に優しいとはびっくりした。／日本と違い、水道・電気が通ってなくて、雨水を使うのはすごくエコで地球に優しい生活だと思った。日本人もそういう生活をしたら電気や水道の有難さがわかると思った。洗濯をして2時間で乾くのはいいなと思った。／女の子が学校へ行かないで働くななんて、すごい。自給自足も。自分だったらたぶん耐えられへん。そう考えたら日本はぜいたくで裕福やと思う。／家が意外に広くて驚き。夜は暑くて虫がいっぱいいそうだけど、そうじゃないんだと思った。ギター聞きたいなあ。／「自然と生きる」というのを本当に自然に行っていて、古きよき文化をうまく伝えていると思った。今の世界は先進国だけを見るのではなく、こういった時間を送る所にも皆、目を向けるべきだ。

【4～6限目】(熱帯雨林とパーム油について)

・車のエアコンにクーラーしかないのがびっくりだった。熱帯の夜は涼しくて過ごしやすいと初めて知ったし、スコールの映像がすごかった。／今、紙とかは普通に使えるけど、マレーシアの森林伐採の半分が日本のためと知って、あるのが当たり前じゃなく、もっと大事にしないとイケないと思った。身近で使われているパーム油のことを初めて知った。／パーム油のおかげで私たちの生活が便利になった代わりに、地球上の酸素の40%を生み出している熱帯林を破壊し、ゾウの生息地を奪っている。これからは食事や洗濯をするにも、熱帯雨林の大切さや生物のことを考えたい。

9. 授業実践を通しての所感・反省・改善策

- ・生徒達は1年生3学期に、青年海外協力隊OBの体験を「出前講座」で聴いている。それを取っ掛かりに、教師海外研修の趣旨やJICA自体の説明ができ、スムーズに話に入れたように思う。
- ・生徒は計4回6時間の授業に回を追って関心を深めた。その結果、大半の生徒には未知なる国マレーシアに対し、高校生としては相当の知識と理解をもてたと思う。さらに熱帯雨林の様子やパーム油をめぐるマレーシアと我が国の状況を知り、環境問題を伝えるテレビ、新聞の報道に問題意識を持つきっかけにはなったと思う。一方、当然ながら時間の関係と自分の知識不足で説明しきれない点も少なからず残った。また、写真と動画(デジカメで撮影)、テレビ番組の映像など、視・聴覚中心となり、実物を手に取って触れるという手法を取り入れることが、あまりできなかった。
- ・帰国後にマハティール氏の著書を見つけ、私自身のマレーシア理解と授業の両面で大きく役立った。新

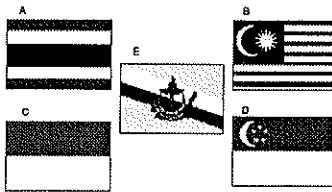
書で入手し易く読み易いので、生徒に一読を勧め、学校の図書館にも入れてもらった。

- ・ 今後機会があれば、生徒に課題を示して調べさせたり、パーム油についての模擬円卓会議をさせたりしてみたい。そうすれば、さらに学習を深めることができるだろう。

10. 写真(授業で使用したパワーポイントより)

①

Q2. マレーシアの国旗はどれ？



②

歴史～多民族国家のなりたち～

1400ころ マラッカ王国建国
 1511 ポルトガルがマラッカを滅ぼす(東洋(日本で)
 1641 オランダがポルトガルを追い出し、占領
 1874 イギリスが植民地とする
 (スズラン山とゴム島を併合→中東と南インドからの労働者を移住させる)
 1941.12.8 日本が上陸、植民地とする(白人支配を一時)
 1945 終戦、日本敗戦でイギリスが再統治
 1957 マラヤ連邦独立
 1963 マレーシア成立(シンガポール、マバ、サラワクを除外)
 1965 シンガポールが分離、独立
 1981 マハティール第4代首相、「ルックイースト政策」発表
 2007 独立50周年

③

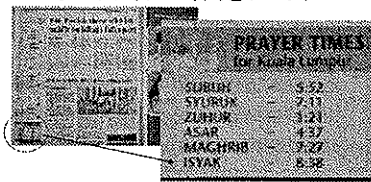
マハティールの「ルック・イースト政策」

「日本や他のアジア諸国の成功の秘訣は、集団の利益を個人の利益よりも優先させることにある。日本や韓国の国民は、規律・忠誠・勤勉を労働倫理として、それぞれの経済・社会の発展の原動力となった。(中略)以上に述べた理由で、マレーシアは東方を注視する事に決定した。」(1983年)



④

イスラム教徒の人は新聞で毎日、礼拝の時間をチェック！



天気予報の下に、礼拝(1日5回!)の時間が載っている
 夜明け前、正午過ぎ、夕方、日没後、夜寝る前+(金)モスクで集団礼拝

⑤

Q6. マレー語で何て言う？

A: Terima kasih.
 (ありがとう)

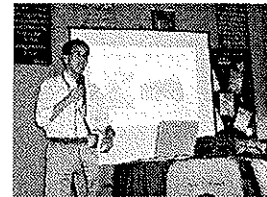
B: (どういたしまして).

- ① Sama-sama.
- ② le-le.
- ③ Hora-hora.



⑥

環境教育に熱心な学校との交流



本校の自然環境コースの教材を英語でプレゼンして頂きました！

⑦



1 日本人集居地から海を望む。ここに集居地を作ったから炒めさんたちの、はるか日本への帰郷の念が伝はれる。



「からゆきさん」を初めて取り上げ、取材したノンフィクション、図化もされた。

⑧

マレーシア人から見た日本
 マハティール前首相のことばより(2)

マレーシアの子どもたちも、先富国同様の価値を抱えています。マレー語で「レバク」という言葉があります。目撃もなく、何もせず、人々が通り過ぎるのをからからしながら見ている者象のことを言います。彼らは特に、雨雲を打ったりします。

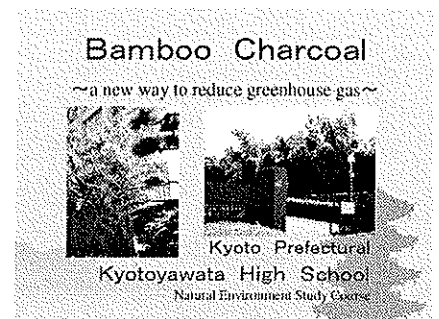
日本でもフリーターという、定額に届かない若者が増えていると聞きました。長期的な目標を持たずにその日暮らしの生活を続け、自分や国の未来のことなど考えていない。このような若者が増えれば、先人が築き上げてきた日本のコミュニティは崩壊してしまいます。それはすなわち、国力の低下を意味します。(中略)

日本人は、日本国憲法の文化にもっと誇りをもつべきです。(中略)あなた方の文化は本國に属しているのです。日本の力を忘れてはいませんが、



2003年

⑨



10

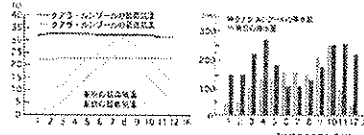
ティン族ダガット村の生活

- ・食料は自給自足(基本的に)
- ・水道・ガスなし(各戸に冷水タンク)
- ・電力は村の自家発電(21歳まで?)
- ・活動は朝早く〜昼行と夕方
女性は4:30ごろ起床、朝食の準備など
- ・村長を中心に、家族同士、村民の間の絆をとても大切にする。
- ・結婚したら嫁入り。
- ・炊事、シャワーはスコールの雨水(高アルカリ性で肌に優しい!)
- ・学校は遠く離れた村へ(寄宿舎)
- ・学校へ行かずに家事を手伝う女子も多い。
- ・男子も大半は高校生まで。



11

熱帯の気候〜強烈な紫外線!〜



マレーシアは熱帯性気候に属し、マレー半島東海岸やサバハ、サラワク州は、10〜3月がモンスーンの時期、西海岸は8〜9月が雨季となるが、東海岸ほど雨は多くない。

熱帯の夜=涼しい! (≠「熱帯夜」)



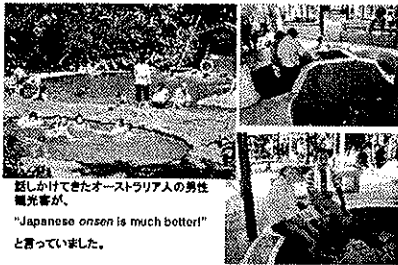
12

Q1. これはなんの花?



13

温泉もあります



話しかけてきたオーストラリア人の男性観光客が、
"Japanese onsen is much better!"
と書いていました。

14

Quiz 2.

地球では、

(1秒)間にサッカー場1面分の
緑が消えている!

An area equal to one green soccer field
disappears from the surface of the earth
every second.

15

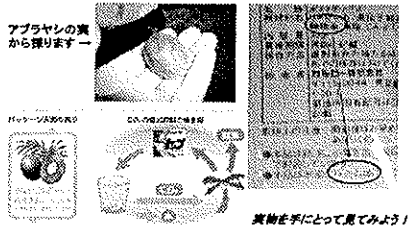
Quiz 3.

次の商品に共通するものは何?



16

答えは...パーム油です



アブラヤシの実から採りますー

パームオイル

実物を手にとって見てみよう!

17



東南アジアだけではなく、
熱帯雨林の問題は
南米アマゾンにも...

読売新聞
2007.12.5 朝刊

18

環境にいい? 「みどりのケールアジア」計画

新聞に書かれていない
(報道されない)事実を
読み取ろう!



読売新聞
2007.9.11.
夕刊

11. 参考資料および引用文献

【1・2限目】(マレーシア入門)

- ・ 田中恭子監修・著『きみにもできる国際交流⑤マレーシア・シンガポール・インドネシア』(偕成社、1999)
- ・ 山崎朋子著『サンダカン八番娼館—底辺女性史序章—』(文春文庫、1972)
- ・ マハティール・モハマド著、加藤暁子訳『立ち上がれ日本人』(新潮新書、2003)
- ・ 井沢元彦著『逆説アジア史紀行』(小学館、2005)

【3時限目】(ダガット村について)

- ・ *INTERPRETATION GUIDE BOOK Tidong Community At Lower Segama* (BBEC, 2006)

【4～6限目】(熱帯雨林とパーム油について)

- ・ 浅間茂著『フィールドガイド ボルネオ野生動物 オランウータンの森の紳士録』(講談社ブルーバックス、2005)
- ・ 蔵前仁一、小川京子編集『季刊旅行人 2006 年春号(No.151) ボルネオ』(旅行人、2006)
- ・ 京都自由学校調査研究入門講座編『あるいて みて きいた モノのこし方・行く末』(京都自由学校、2001)
- ・ 田中章義編著『地球では1秒間にサッカー場1面分の緑が消えている』(マガジンハウス、2004)
- ・ Ruth Lim: *Kogiu and the Banana Tree In the Lower Kinabatangan* (WWF-Malaysia, 2004)

【その他、全般】

- ・ 水島司編『暮らしがわかるアジア読本 マレーシア』(河出書房新社、1993)
- ・ 事前研修資料、現地配布資料(JICA Malaysia, RSPO など)
- ・ 各社ウェブサイトの商品画像など(ライオン「トッパ」、カルビー「ポテトチップ」、地球の歩き方など)